

国土交通省は30日、ダム事業の必要性を検証する対象となっていた大分川ダム(大分市下原)について、建設事業を継続する方針を発表した。

大分川ダムは民主党政権のダム見直し方針を受け、2010年から県や流域自治体でつくる「検討の場」でコストや代替案を比較、検討。今年5月に「コスト面を含め、ダム建設が優れている」との結論をまとめた。

広瀬勝貞知事は国が建設

フルーツトマト生産 中津に農場開設へ

青果生産・販売業の和郷



木内博一和郷代表(中央)、中原良祐大分和郷代表(左)が農場開設を報告=30日、県庁

青果生産・販売業の和郷(千葉県香取市)が30日、中津市にグループ会社の運営による農場を開設すると発表した。フルーツトマトを生産し、西日本での販売拡大を目指す。来年7月に定植し、10月以降に出荷を開始する計画。

同社の木内博一代表と、

早い完成をお願いしたい」とのコメントを発表した。

大分川ダム工事事務所によると、総事業費は980億円。進捗率は54%(事業費ベース)で、ダム本体や市道の付け替え工事などが残っている。

「アイメックシステム」でフルーツトマトを栽培する。パート従業員30人を採用する予定で、初年度は約90トの生産量を見込んでいる。最終的には農地を3倍まで拡大する考え。

和郷は自社店舗やインターネットで青果を販売するほか加工業、卸売業などを展開。香港やタイにも生産・流通拠点を持つ。

手塩にかけた品PR

「香々地菜の花油

豊後高田市長崎島地区の活性化に取り組み長崎島B・Kネット(近藤哲憲代表)の関係者と永松博文市長が30日、今年搾油した菜種油「花の岬「香々地」菜の花油」を県庁で広瀬勝貞知事に贈った。

B・Kネットには地域住民の有志が参加。2011年度から県の「地域の元気創造事業」の助成を受け、菜の花やヒマワリの栽培、商品開発・販売、イベント

の企画運営をしている。贈った油は焙煎した種を圧搾法で搾油しており、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸をバランスよく含み、コクのある風味が特徴という。近藤代表は今後の課題として「生産量がまだ少ない。技術を向上させ栽培面積をさらに有効活用していきたい」と話した。



「菜の花油」について説明をする近藤代表(左)



シャインマスカットの説明をする矢野部長(左)



阿部良秀本部長(中央)が「高値での取引を」呼び掛け

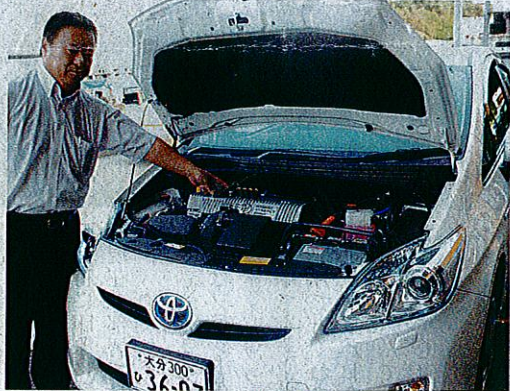
JAおおいの安心院ふとろ部会(矢野和敏部会長、166人)は25日、生産し

た大粒の緑色系「ドウ」シャインマスカット」を県庁で広瀬勝貞知事に贈った。生産者の小野次信さん(62)、友田裕子さん(49)は「粒を満遍なくきれいにつけるのが難しい」などと説

明。広瀬知事は試食をして「甘くて爽やか。1粒で止まらないね。素晴らしい品種が県産品に加わった」と激励した。

シャインマスカットは2006年に品種登録。全国

的に人気が高まっている。県内では08年から宇佐市安心院町で栽培が始まった。県ふとろ研究会は県内の栽培面積を現在の13倍から15年までに30倍に広げること



エンジンにLPガスの配管を接続。見た目は通常の車と変わらない「ハイブリッド・ハイビュール車」=大分市三佐のエフ・ケイメカニック

自動車整備業のエフ・ケイメカニック(大分市、☎097・522・7555)は、プリウス(トヨタ)などのハイブリッド車にLPガスのタンクを取り付け、二つの燃料と電気で行ける「ハイブリッド・ハイビュール車」の販売を始めた。市販のガソリン車をハイビュール車に改造し、タクシーなどの業務用にこれまで600台以上を販売してきた。燃料の値上がりや、二酸化炭素排出削減の必要性が高まっていることを受け、「燃費の

良いハイブリッド車をさらに機能的にしたかった」と古川克己社長。ハイビュールのプリウスの燃料費は現行の約60%で、二酸化炭素の排出量も10%前後低いという。改造価格は車種により50万~80万円。新車、中古車とも対応し、20車種から選べる。部品はハイビュール車が普及しているイタリアのメーカーのものを使用。古川社長は「乗り心地は通常のハイブリッド車と変わらない。個人客もまずは相談してほしい」としている。

大分市の「エフ・ケイメカニック」

二つの燃料と電気で行